

大学紀要3分冊で

文学・美術編 経営・経済・社会学編 情報科学・自然科学編

「全学紀要委」刊行を一本化

金沢学院大学の平成十四年度研究紀要はこれまでの学部ごとの発行を見直し、学部・機構を横断した「3分冊1セット」のスタイルで、装いを新たにしている。これまでは学部ごとに紀要委員会を置き個別に編集、発行してきたが、昨年四月に基礎教育機構が発足したこともあり発行を一本化、「全学紀要委員会」（委員長・藤則雄教授）で準備を進めてきた。

分冊化は文系と理系の混在をできるだけ避け、刊



3学部1機構を横断、編集

それぞれ五百十五部、四百四十五部、三百九十部を印刷。表紙装丁・デザインは美術文化学部の山口征三教授、高屋喜久子講師が担当した。

短大も新装第1号
金沢学院短大の十四年度紀要もスクールカラーのえんじ色を配した同一デザインで新装。第一号として刊行された。通巻では第四十四巻。

行と関係機関への配布を効率的にする狙いで、文学部、経営情報学部、美術文化学部、基礎教育機構の学科構成や教員の専門分野を考慮し、文学・美術編、経営・経済・社会学編、情報科学・自然科学編の三編とした。教授、助教授、講師の論文や美術作品を収載するとともに、十四年度に実施した公開講座の概要も載せてある。

新たな道程へ一歩

大学、短大、金沢東高校の平成十四年度卒業式は三月、相次いで行われ、大学は四百六十人、短大は百四十六人、高校は二百三十八人が集立った。大学は十二人が経営情報学研究所を修了した。

短大第五十二回卒業証書授与式(二百、栗立音楽堂コンサートホール) 写真左下
女子の卒業生はほとんどが色とりどりの羽織はかま姿で出席、式典会場は華やかさがあふれた。小堀短大校長は式辞の中で建学の精神「愛と理性」のもとで学んだ意義を強調し、「準学士の称号を受けた皆さんは識者である」と激励。飛田秀一理事長は「他に与えることができずこそ大人。本物の大人になってほしい」と告辞を述べた。卒業生百四十六人を代表して田中ひとみさんが答辞を述べた。

聴覚障害を乗り越え栄養士の資格を取得した玉津美由紀さんと、玉津さんをサポートした二人の学友が学長特別褒賞を受けた。



金沢学院大学第十三回卒業証書・学位記授与式、大学院第三回学位記授与式(十四日、金沢市観光会館) 写真上
宮本匡章学長は、「これからの知識社会は常に学ぶことを必要とする社会。大学卒業で学びが終わるわけではない。自分自身のセンサーを働かせ、不断に学び続けてほしい」と式辞。飛田秀一理事長は告辞の中で、「盗む」という言葉を使って、他から積極的に知識や技能、生き方を学び取ることの大切さを強調。宮本武蔵の座右の銘「我以外、みな師なり」を紹介しながら、「(盗む対象となる)憧れの人物を見つけ、その人に近づく努力をしてほしい」と述べた。

卒業生を代表して経営情報学部の中西宏爾さんが答辞を述べた。

金沢東高校第四十九回卒業証書授与式(一日、観光会館) 写真下
松田章一校長は「真の自負心を持ち、価値ある目的を掲げてほしい」と、飛田秀一理事長はノーベル賞を受賞した田中耕一さん



の研究・仕事を引き合いに「失敗は困難に打ち勝つ新たな力となる。失敗を恐れず、それぞれの道を切り拓いていってほしい」とはなむけの言葉を送った。卒業生代表の川尻名緒さんが答辞を述べた。

発行・入試広報部

今号より、キャンパスの愛称にちなみ「清鐘台通信」と改題しました。

学院大に五八人 慶大、北海道大にも 東高校進学状況
金沢東高十四年度卒業生の進学状況(三月二十八日現在)がまとまった。金沢学院大に五十八人が進学するほか、国公立は北海道大、石川県立看護大、島根大、九州工業大など、私立は慶応大、中央、明治、法政、関西、関西学院大など。計四十九大学に百六十三人が合格した。